©海事プレス社2026 禁無断転載

9月は8%増の1735万TEU

■世界コンテナ荷動き、欧米向け好調

コンテナ荷動き統計を集計するCTS（Container Trades Statistics）のデータによると、9月の世界のコンテナ荷動き量は前年同月比8.4%増の1734万6007TEUとなった。単月実績として過去最高を記録した8月と比べて減少したものの、5カ月連続で1700万TEU台で推移するなど好調な荷動きを維持している。1～9月累計の荷動き量は前年同期比約5%増の1億5077万TEUとなった。

9月は特に欧米向けの荷動きが好調だった。全世界から欧州へのコンテナ輸送量は前年同月比12.0%増となり、2ケタ増だった。8月は前年同月比でマイナスとなっていたが、2カ月ぶりに増加した。足元ではアジア発欧州向けの短期コンテナ運賃も上昇傾向にある。来年2月上旬の旧正月に向けて、年末ごろから荷動きが再び増加する可能性もある。一方、EUは対中貿易赤字が拡大しており、保護主義的な措置を強める動きもある。将来的に中国発欧州向けのコンテナ輸送にマイナスの影響を与える可能性がある。

全世界から北米向けのコンテナ輸送量は15.2%増と大きく伸びた。8月に引き続いて2ケタ増となり、好調に推移している。他方で北米からの輸出は減少しており、輸出入のインバランスが拡大している。

中国を中心とするアジアでは8月以降、相次ぐ台風の影響で主要港の混雑が深刻化した。これにより、出荷時期が9月以降に後ろ倒しされたとの見方もある。加えて、例年通り、国慶節前の輸送ラッシュの影響もあり、極東発全世界向けの輸出量は12.4%増と大きく伸びた。